

## 兵庫県医師会医療支援チーム（第21陣）「宮城県災害支援現地報告」

副会長 小澤 孝好

本会からは5月2日～5月4日に医師4名、県医事務職員等の計8名が出務しました。ゴールデンウィーク明けから学校の授業が始まるので教室の避難者の移動が各学校で実施され、エリア4（本会の担当避難所は5カ所）においても避難者数が大きく変動し、本会が医療拠点を設置している石巻中学校では避難者数は305人から180人に減少しました。そこから93人が新たな避難所である山下中学校に移動し、その巡回診療をどのチームが担当するかが新たな課題でしたが7日のメールによれば本会が担当と。拠点医療から巡回診療に重点がシフトしていました。看護師の熱心な観察により、体育館避難のハイリスク者の脳梗塞事例が早めに発見され、着任早々、朝田真司先生が連携して救急搬送しました。トイレ事情が良くなく、水分摂取を控えたために脱水状態となり、脳梗塞を発症したケースであり、同様のリスク者が少なからずおられるという事でした。和式トイレを使用できない方のために洋式便座を既に看護師が手配しましたが、サイズ等問題があり、改善を要望しておきました。インフルエンザや感染性胃腸炎の流行はありませんでしたが、避難所の空気の為か咳き込む人が多い。

現地の多くの医療機関が再開しており、ガソリン不足は解消され交通も復活したことと、管理が慢性疾患や介護にシフトしていることから、医療派遣チームの役目も収束しつつあると実感しました。後は、再開医療機関に紹介状を作成することが重要な作業となります。

石巻中学校体育館（昼間は多くが不在）には避難者が自分で血圧測定できるように血圧計を新たに2台設置、配置されている行政等の管理者にAED講習会を実施。現地を発つ最後に大江与喜子先生が見事に異物摘出術を実施され、患者さんは大感激。